



麻布幼稚園だより

令和4年2月号
港区立麻布幼稚園
園長 酒井 正美

立春が近付き、まだまだ寒い中にも梅の花が咲き始め、育てている球根にも生長が見られるなど、春の訪れが少しずつ感じられる候となりました。

今冬は寒さの厳しい日が多くありました。それは、子供たちにとっては楽しいことでもありました。辺り一面が真っ白になる程の雪、寒い朝に氷ができているのを見付けるなど、子供たちはとてもワクワクしたことと思います。年長組では、幼稚園の園庭や屋上で霜柱を見付けて容器いっぱいを集めたり、「氷ができるかも。」と、水を張ったバケツを置いて帰ったりする姿がありました。



「ここには霜柱がたくさんできるよ。」「お昼になると霜柱はなくなっちゃうよ。」など、身近な自然に直接触れ、体験を通して、幼稚園の中のことや霜柱のことをよく知っています。さすが年長組です。「氷ができるといいね。」「バケツはどこに置こうか。」等々、幼稚園には小さな科学者がたくさんいます。

幼稚園ではどの学年も「こども会」に向けての取組が始まっています。プレイルームからは、楽しそうな声や音楽が聞こえてきます。子供たちは日頃から、絵本の読み聞かせや紙芝居などに親しんでいます。物語には、話のおもしろさ、繰り返しのリズムや言葉のやり取りの楽しさなど、子供たちが大好きな要素が様々にあります。そのような楽しさと共に、体を動かして表現する楽しさが「劇遊び」にはあります。

話の流れに沿って動く楽しさ、友達と一緒に声や動きを揃える楽しさ、友達と相談しながらつくり上げていく楽しさ。学年によって楽しさの中身はそれぞれですが、学級や学年のみんなと一緒にすることが楽しいというのは共通です。

しかし、みんなの中で自分なりの表現を伸び伸びとすることは、考えてみると大人でも難しいことではないでしょうか。子供だからできるという訳でもありません。どの学級・学年も、4月から積み重ねてきた友達や先生との関係性があるからこそできるのです。

どのような表現をしても受け止めてもらえる安心感、認めてもらえる関係性があるからこそ、伸び伸びと表現をすることができます。感じたことや考えたことを、自分なりの言葉や動きで伸び伸びと臆することなく表現することは、自信につながります。これらの経験や自信は、小学校以降の学習や生活にもつながっていきます。

「かわいい」「楽しい」子供たちの劇遊びですが、観客となる保護者の皆様には劇遊びの一員として、大切な育ちにも目を向けながら、温かい目や拍手で、応援していただければと思います。

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と言いますが、大切な2月を逃すことはできません。教職員一同力を合わせ、子供たちと充実させていきたいと思っています。